

地域安全学会・東日本大震災連続ワークショップ 2018 in 南三陸に参加しました (2018/7/29-30)

場所：南三陸町役場（宮城県南三陸町）
 参加者：佐藤翔輔准教授，新家（M1）

7月29日(日)～30日(月)に、2017年に高台で再建された南三陸町役場の新庁舎において、地域安全学会「東日本大震災連続ワークショップ2018 in 南三陸」が開催されました。同学会では、東日本大震災を契機とした今後の復興と防災について、被災地の現場で議論を深めていくことを目的として、東日本大震災発生以降、通常の研究発表大会とは別に、同ワークショップを開催しています。同ワークショップは、これまで、東日本大震災の被災地を中心に開催されてきました。今回の宮城県南三陸町のワークショップは第7回目となり、約30名が参加いたしました。

29日には、南三陸町長による町の復興状況についての基調講演が行われ、その後、研究発表が行われました。翌30日には、南三陸町・女川町での現地見学会現地見学会が行われました。各発表者の講演題目等は次の通りです。防災の取り組みに関する多くの発表を聞くことができ、大変勉強になりました。この経験を研究活動に活かしていきたいと思います。

佐藤 翔輔・川島 秀一・今村 文彦：気仙沼市における震災遺構の成立プロセスの整理と考察
新家 杏奈・佐藤 翔輔・川島 秀一・今村 文彦：陸前高田市と気仙沼市の津波伝承の状況とその効果

浅利 満理子・佐藤 翔輔：石巻市南浜・門脇地区における震災学習プログラムの変化の事例を通じたソフト/ハードの震災伝承実践の統合的議論に向けた検討

藤本 慎也・佐藤 翔輔ら：宮城県名取市における東日本大震災被災者に対する伴走型支援提供に関する検証：名取市現況調査4年分のパネルデータから

松川 杏寧・佐藤 翔輔ら：災害ケースマネジメント手法のキーワード分析—名取市生活再建支援の現場から—

※ 著者名は、筆頭者と研究室メンバー（下線）のみ記載



会場の様子



佐藤翔輔准教授の研究発表



新家（M1）の研究発表



女川でのまち歩き

(文責：新家)